

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| | | | | |
|----------------|----------------|------------|------|-----|
| ※受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
| 28 - 107 | 高等学校 | 国語 | 現代文B | |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教 科 書 名 | | |
| 143 筑摩 | 現B 337 | 精選現代文B 改訂版 | | |

1. 編修の基本方針

◎教育基本法第2条の1～5号に示された教育の目標を達成するために必要な教材を精選して掲載しました。さらに、掲載された教材が上記の教育の目標を達成するのに効果的な学習ができるよう「学習の手引き」などを付して配慮しました。

2. 対照表

| 教育基本法第2条 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|--|--|---|
| 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健全な身体を養うこと。 | 近代の我が国のすぐれた文章から、文章の基本的諸形態にわたるよう配慮しながら精選して掲載し、各教材末に掲載した「学習の手引き」で学習の指針を示すことによって幅広い教養と真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培えるよう意を用いました。 | 全ページ |
| 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。 | 左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。 | P.28～41 P.64～87 P.112～119 P.150～157 P.330～337 P.355～367 P.390～403 |
| 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に画し、その発展に寄与する態度を養うこと。 | 左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。 | P.104～111 P.158～190 P.238～261 P.292～322 P.348～354 P.458～472 |
| 第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。 | 左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。 | P.50～55 P.88～95 P.277～283 P.338～347 P.414～420 |
| 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。 | 左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。 | P.8～13 P.42～49 P.56～63 P.120～133 P.140～149 P.225～237 P.284～291 P.368～389 P.435～438 P.440～457 |

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

◎義務教育の成果を発展拡充させて、高等学校の国語科の選択科目として期待される一般的な教養を高めることができるよう教材の選定などに意を用いました。さらに、それぞれの発達段階での適時性に配慮して教材を選定しました。また、言語教育としての国語科の立場を明確にしなが、充実した学習が可能になるよう意を用いました。

- (備考)
- ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
 - 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を記入する。
 - 「対照表」欄には、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。
 - 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。(例：第○号)
 - 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ(例：○ページ)を記入する。
 - 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
 - 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄には、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。
 - 「編修の基本方針」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
 - 別紙様式第4-1号の分量は5ページ以内とする。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時間数表)

| | | | | |
|----------------|----------------|------------|------|-----|
| ※受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
| 28 - 107 | 高等学校 | 国語 | 現代文B | |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教 科 書 名 | | |
| 143 筑摩 | 現B 337 | 精選現代文B 改訂版 | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ①**教材のねらいと取材の範囲** 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる教材を精選しました。取材の範囲は、「現代文B」の学習目標に適切であると思われ、かつ内容・表現ともに基礎的なものから発展的なものまで、学習者の国語を理解する力を涵養する近代以降の文章を厳選しました。
- ②**二部構成の編集** 学習者の発達の段階を考慮して全体の構成を二部に分け、それぞれ十二単元・十単元とし、各々の教材の内容と配置によって各分野の有機的な関連付けを図りました。
- ③**ジャンル別の単元構成** 単元構成については、「評論」「小説」「詩歌」「随想」「実用の文章」とし、年間を通して現代文の学習の流れが円滑に進められるよう、単元の組織に意を用いました。各単元の中では、時代や傾向を異にする教材を複数配置することで、全体に多様で重層的なふくらみが生まれるよう意を用いました。
- ④**思考力を深める教材を精選** 教材の選定に当たっては、文体・内容とも多種多様なものを取り上げて、日本語の豊かな言語文化に触れることができるように工夫しました。論理的な文章と文学的な文章、その他様々な文章をかたよりなく組み合わせ構成し、目的や内容に応じた読み方を通して文章を読解・鑑賞・表現する能力を高めることができるよう意を用いました。論理的な文章においては、論理的・科学的な見方や考え方を養うのに役立つような教材を選び、論理の展開や要旨を的確に捉えることができるよう、設問等を工夫しました。文学的な文章においては、主題・構成・叙述などを確かめつつ、人物・情景・心情などを的確に捉え、表現を味わうことができるよう意を用いました。その他、実用的な文章・翻訳の文章・文語的な文章・詩歌など様々な文章を取り上げ、人間・社会・自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすることができるようにしました。
- ⑤**手引き・キーワード** 各教材への理解を深め、学習活動を充実させるための手引きを教材末に示しました。また、評論教材では教材毎の「キーワード」を示し、教材末で解説しました。

2. 対照表

| 図書の内容 | | | 学習指導要領の内容 | | | | |
|------------|-------------------------------|--------|-----------|---|---|---|---|
| 単元 | 教材名 | 作者 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| 第一部 | | | | | | | |
| 評論一 | 情報の彫刻 [キーワード] 情報 | 原 研哉 | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | 見る [キーワード] 観念 | 太田省吾 | ○ | | ○ | | ○ |
| | 思考バイアス [キーワード] バイアス | 池内 了 | ○ | | ○ | ○ | |
| 小説一 | 山月記 | 中島 敦 | | ○ | ○ | | ○ |
| 評論二 | 実体の美と状況の美 [キーワード] 美学 | 高階秀爾 | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | ラップトップ抱えた「石器人」 [キーワード] 進化史 | 長谷川真理子 | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | アイオワの玉葱 [キーワード] 母語 | 長田 弘 | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 小説二 | 水かまきり | 川上弘美 | | ○ | ○ | | ○ |
| | 水仙 | 太宰 治 | | ○ | ○ | | ○ |
| 評論三 | 生物の作る環境 [キーワード] 環世界 | 日高敏隆 | ○ | | ○ | ○ | |
| | 物語るといふ欲望 [キーワード] テキスト | 内田 樹 | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | 文学の仕事 [キーワード] アイデンティティ | 加藤周一 | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 随想 | 芝 | 蜂飼 耳 | | ○ | ○ | | ○ |
| | 空と風と星と詩 | 茨木のり子 | | ○ | ○ | | ○ |
| 評論四 | 異時代人の目 [キーワード] 価値の転換 | 若桑みどり | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | ファンタジー・ワールドの誕生 [キーワード] 観光 | 今福龍太 | ○ | | ○ | ○ | |
| | つながりと秩序 [キーワード] 社会性 | 北田暁大 | ○ | | ○ | ○ | |
| 小説三 | こころ | 夏目漱石 | | ○ | ○ | | ○ |
| | [参考] 現代日本の開化 | 夏目漱石 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 羅針盤①…夏目漱石と「こころ」 | | | | ○ | | |
| 評論五 | 身体、この遠きもの [キーワード] 身体 | 鷺田清一 | ○ | | ○ | | ○ |
| | 絵画の二十世紀 [キーワード] リアリズム | 前田英樹 | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | 科学・技術と生活空間 [キーワード] 大衆 | 村上陽一郎 | ○ | | ○ | ○ | |

| 図書の構成・内容 | | | 学習指導要領の内容 | | | | |
|------------|------------------------------|-------------|-----------|---|---|---|---|
| 単元 | 教材名 | 作者 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| 詩歌 | I was born | 吉野 弘 | | ○ | | | ○ |
| | サーカス | 中原中也 | | ○ | | | ○ |
| | 永訣の朝 | 宮澤賢治 | | ○ | | | ○ |
| | 短歌 | 正岡子規 ほか | | ○ | | | ○ |
| | 死にたまふ母 | 斎藤茂吉 | | ○ | | | ○ |
| 評論六 | 虚ろなまなざし [キーワード] ヒューマニズム | 岡 真理 | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | 「である」ことと「する」こと [キーワード] 近代 | 丸山眞男 | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 実用の文章 | 手紙 報告 | 萩原朔太郎・岡本かの子 | | ○ | ○ | | ○ |
| | | 小関智弘 | ○ | | ○ | | ○ |
| 第二部 | | | | | | | |
| 評論一 | 近代の成立——遠近法 [キーワード] 主体 | 橋爪大三郎 | ○ | | ○ | ○ | |
| | 「自然を守る」ということ [キーワード] 二項対立 | 森岡正博 | ○ | | ○ | ○ | |
| | 日本文化私観 [キーワード] 美 | 坂口安吾 | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 小説一 | 舞姫 | 森 鷗外 | | ○ | ○ | | ○ |
| | 羅針盤②…「舞姫」と近代小説の誕生 | | | | ○ | | |
| 評論二 | ことばへの問い [キーワード] 分節化 | 熊野純彦 | ○ | | ○ | | |
| | 物語としての自己 [キーワード] 自己 | 野口裕二 | ○ | | ○ | ○ | |
| | Not I, not I.. [キーワード] 贈与 | 中沢新一 | ○ | | ○ | | ○ |
| 随想 | 戦場の凧揚げ | 李禹煥 | | ○ | ○ | | ○ |
| | チャンピオンの定義 | 大江健三郎 | | ○ | ○ | | ○ |
| 評論三 | 陰翳礼讃 [キーワード] 瞑想 | 谷崎潤一郎 | ○ | | ○ | | ○ |
| | 無常ということ [キーワード] 歴史 | 小林秀雄 | ○ | | ○ | | ○ |
| | 小説とは何か [キーワード] 幻覚 | 三島由紀夫 | ○ | | ○ | | ○ |
| | [参考] 遠野物語 | 柳田國男 | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 小説二 | 急須 | 南木佳士 | | ○ | ○ | | ○ |
| 評論四 | ものごと [キーワード] 対象 | 木村 敏 | ○ | | ○ | | |
| | 死と向き合う [キーワード] 告知 | 清水哲郎 | ○ | | ○ | ○ | |
| | 貨幣共同体 [キーワード] 欲望 | 岩井克人 | ○ | | ○ | | ○ |

| 図書の構成・内容 | | | 学習指導要領の 内容 | | | | |
|----------|---|------------------------|---------------|---|---|---|---|
| 単元 | 教材名 | 作者 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| 詩歌 | 表札 | 石垣りん | | ○ | ○ | | ○ |
| | 夜がやって来る | 石原吉郎 | | ○ | ○ | | ○ |
| | 俳句 | 村上鬼城 ほか | | ○ | ○ | | ○ |
| 小説三 | 砂の本 | ホルヘ・ルイス・ボルヘス 篠田一士 訳 | | ○ | ○ | | ○ |
| | 藤野先生 | 魯迅 竹内 好 訳 | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 評論五 | 寛容は自らを守るために 不寛容に対して不寛容であるべきか [キーワード] 秩序 | 渡辺一夫 | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | リスク社会とその希望 [キーワード] 科学的な知 | 大澤真幸 | ○ | | ○ | ○ | |
| 付録 | 近現代文学史 | | | | ○ | | |

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
- 2 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則に示す教育の方針や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
- 3 「対照表」欄には、図書の構成・内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ(例：○～○ページ)を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 4 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要ない教科、種目については空欄でよい。
- 5 「編修上特に意を用いた点や特色」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
- 6 別紙様式第4-2の分量は5ページ以内とする。